

国土交通省北陸地方整備局

防災センター



新潟防災センター

上越防災支援センター

富山防災センター



突然の災害に備える。

地震や風水害、雪害などの自然災害が発生したときに、3つの防災拠点が連携し、効率的かつ迅速な防災活動を行います。

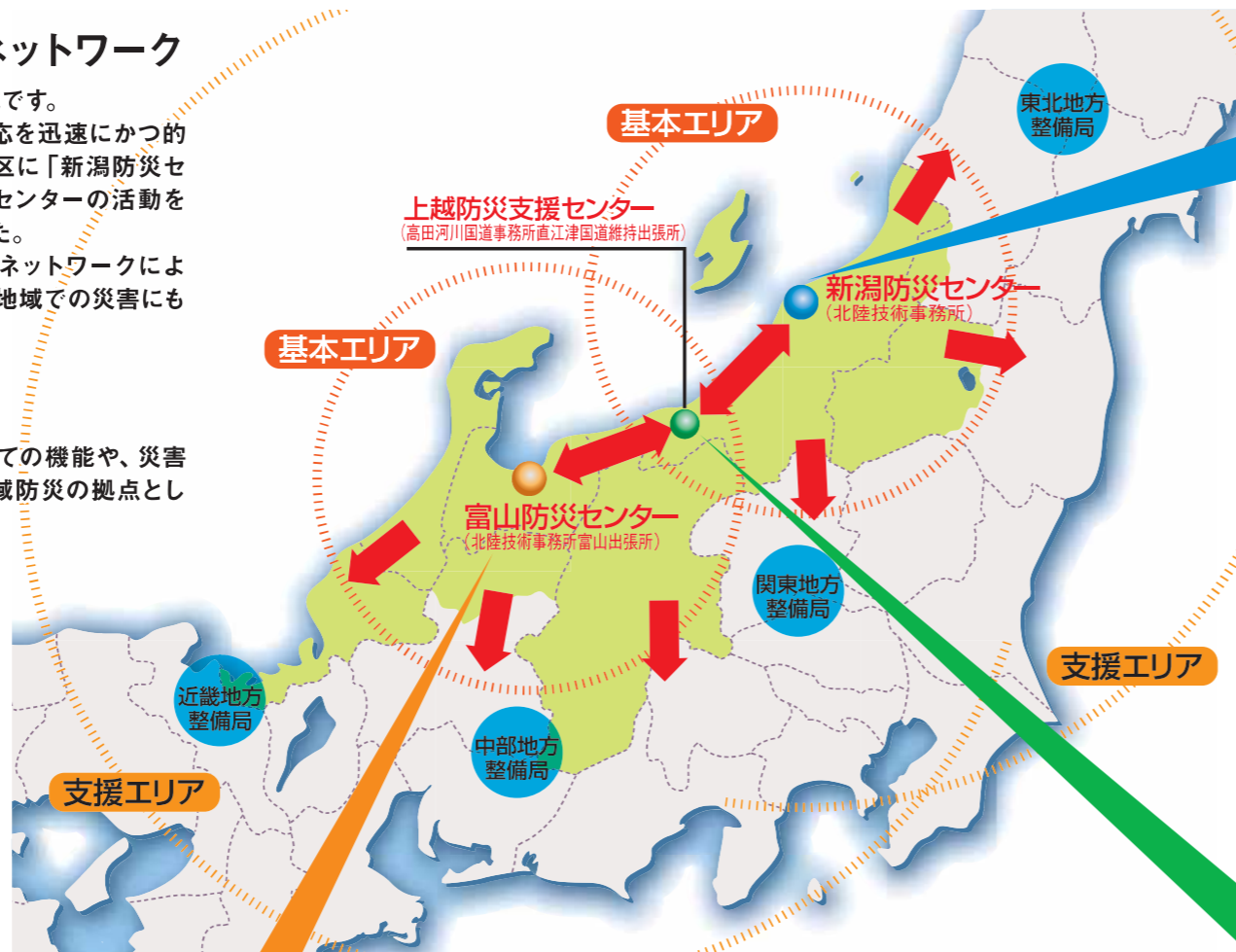
■安全・安心のための広域防災ネットワーク

北陸地域は、東西500kmに伸びる細長い地域です。災害が発生した時、この広大な地域の災害対応を迅速かつ的確に行うために、北陸地方整備局では、東部地区に「新潟防災センター」、西部地区に「富山防災センター」、両センターの活動を支援する「上越防災支援センター」を整備しました。

この3つの防災センターによる広域防災拠点ネットワークにより、北陸地域の災害に対応するだけでなく、近隣地域での災害にも対応できます。

■防災センターの役割

防災センターは災害対策本部の代替施設としての機能や、災害対策機械、資機材の管理、運営だけでなく地域防災の拠点としての役割を担っています。



新潟防災センター

■施設面積 約20,000㎡



■主な災害対策用建設機械一覧表

対策本部車	拡幅型	照明車	2kW×6灯	トンネル無人調査ユニット	小型専用機
衛星通信車		待機支援車	支援用バス型	災害用トイレ	コンテナ型
K-COSMOS通信車		待機支援車	資材運搬用	待機支援車	資材運搬用
排水ポンプ車	60m ³ /min 高揚程型	情報収集車	先遣用	投下型水位計	
排水ポンプ車	60m ³ /min	橋梁点検車	歩廊式	衛星小型画像伝送装置 (Ku-SAT)	可搬局
排水ポンプ車	30m ³ /min	遠隔操縦対応型ショベル	0.8m ² 級	簡易画像伝送装置	
照明車	1kW×8灯	応急組立橋	6×40m、歩道付	ヘリコプター画像受信装置	可搬局

富山防災センター

■施設面積 約52,000㎡



■主な災害対策用建設機械一覧表

対策本部車	拡幅型	照明車	2kW×6灯 ブーム式	応急組立橋	6×40m
衛星通信車		待機支援車	支援用バス型	衛星小型画像伝送装置 (Ku-SAT)	可搬局
排水ポンプ車	60m ³ /min 高揚程型	待機支援車	資材運搬用	簡易画像伝送装置	
排水ポンプ車	30m ³ /min	情報収集車	先遣用	ヘリコプター画像受信装置	可搬局
照明車	2kW×4灯	橋梁点検車	バケット式		
照明車	2kW×6灯 2柱式	遠隔操縦対応型ショベル	1.4m ² 級		

1F 災害対策棟 防災ナビルーム

防災・災害に関する知識を学ぶ「展示室1」と、地域の自然、歴史や文化を学ぶ「展示室2」など様々な情報を公開しています。

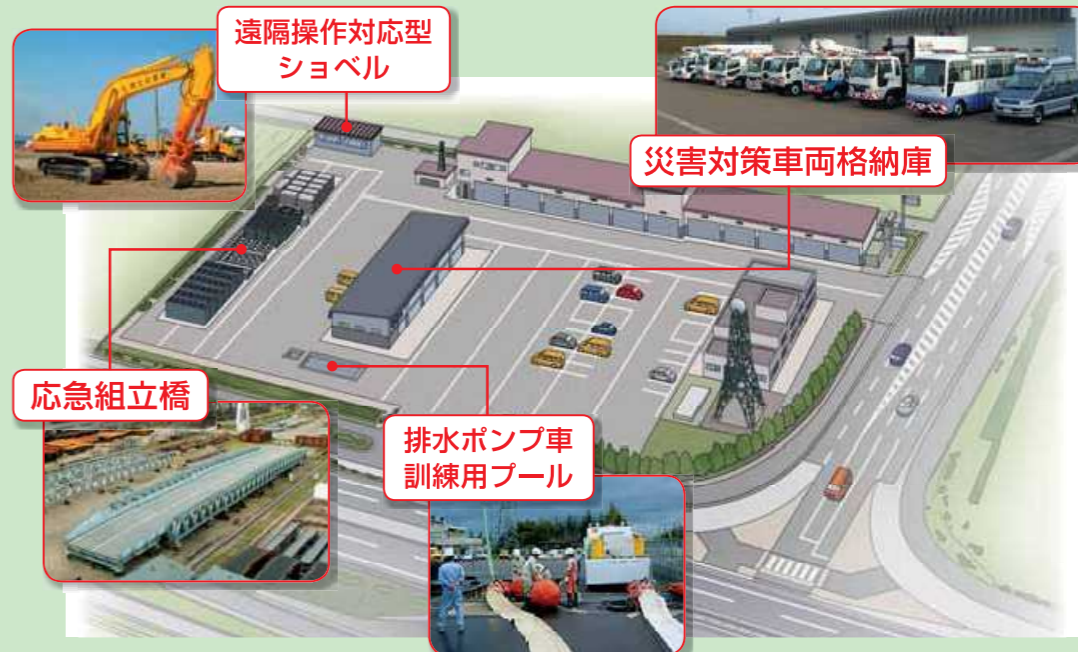
■開館時間 月～金9:30～16:00
■休館日 土日祝祭日及び年末年始

2F 災害対策棟 災害対策室



上越防災支援センター

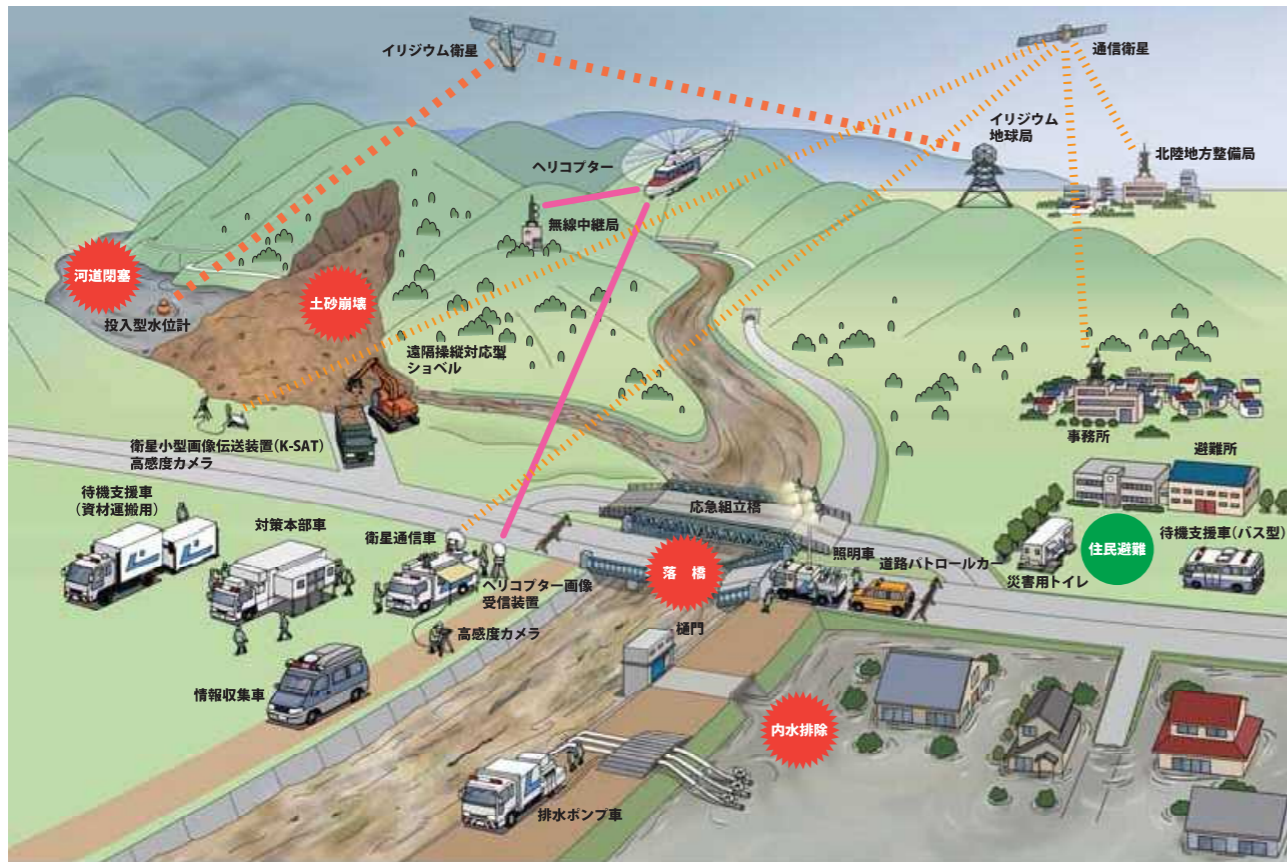
■施設面積 約5,000㎡



■主な災害対策用建設機械一覧表

対策本部車	拡幅型	待機支援車	支援用バス型	遠隔操縦対応型ショベル	1.4m ² 級
衛星通信車		待機支援車	資材運搬用	応急組立橋	7×50m、歩道付
排水ポンプ車	60m ³ /min 高揚程型	情報収集車	先遣用	簡易画像伝送装置	
排水ポンプ車	60m ³ /min	照明車	2kW×6灯	ヘリコプター画像受信装置	可搬局

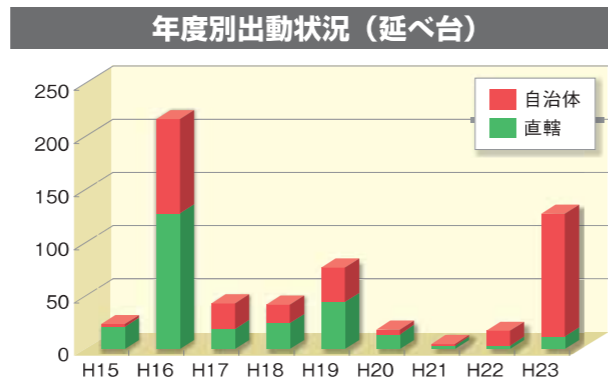
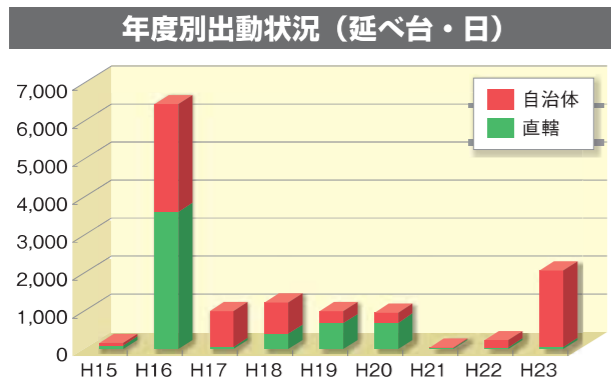
災害対策用機械と通信



近年の災害対策用機械出動状況

年度(災害名)	出動災害数	出動台数(延べ台・日)			出動台数(延べ台)		
		延べ台数	うち直轄	うち自治体	総台数	うち直轄	うち自治体
平成15年度	7	166	113	53	25	22	3
平成16年度	5	6,440	3,601	2,839	212	129	83
うち新潟福島豪雨対応		(422)	(376)	(46)	(64)	(60)	(4)
うち新潟県中越地震対応		(5,882)	(3,196)	(2,686)	(123)	(62)	(61)
平成17年度	8	984	41	943	44	20	24
平成18年度	7	1,232	410	822	43	26	17
うち能登半島地震対応		(1,127)	(312)	(815)	(34)	(17)	(17)
平成19年度	5	985	684	301	77	45	32
うち新潟県中越沖地震対応		(931)	(645)	(286)	(67)	(40)	(27)
平成20年度	3	936	691	245	20	15	5
うち7.28豪雨対応		(247)	(2)	(245)	(7)	(2)	(5)
うち岩手宮城内陸地震対応		(689)	(689)	(0)	(11)	(11)	(0)
平成21年度	3	8	6	2	6	4	2
平成22年度	10	223	31	192	18	4	14
平成23年度	14	2,076	40	2,036	127	13	114
うち東日本大震災対応		(1,622)	—	—	(51)	—	—
うち新潟福島豪雨対応		(209)	—	—	(52)	—	—
うち台風12号対応		(4)	—	(4)	(152)	—	(152)

※平成23年度の「うち自治体」は、一部が「直轄」を含んでいる。



主な災害対策用機械

災害対策本部車



能登半島地震 (H19.3)
中越沖地震 (H19.7)

被災地の現地対策本部として使用します。衛星電話、FAX、テレビ、ビデオなどが装備されています。

衛星通信車



災害で通常の通信が不通となった場合に衛星回線により通信を確保します。通信だけではなく、映像をリアルタイムで送受信することができます。

東日本大震災 (H23.3)

排水ポンプ車

豪雨等による浸水被害を最小限に抑えたり、津波などで混った水を排水します。



新潟福島豪雨 (H23.7)

応急組立橋



災害で橋梁や道路が使用できなくなった場合に、交通路を確保するための仮橋として使用します。

新潟福島豪雨 (H23.7)

遠隔操縦対応型ショベル【無人パワーショベル】



二次災害の危険がある箇所の復旧活動を遠隔操縦にて行います。

新潟県中越地震 (H16.10)



橋梁点検車

災害発生時に橋梁などの構造物の損傷状況を調査・確認するために使用します。



能登半島地震 (H19.3)

照明車



夜間における復旧作業や監視を行う場合の照明として使用します。

災害用トイレ



新潟県中越沖地震(H19.7) 避難所等で使用する可搬式のバリアフリー超節水型洋式水洗トイレです。

投下型水位計



土砂災害によってできた「天然ダム」の水位を観測します。ヘリコプターで投下し、衛星通信によりデータを送信します。

Ku-Sat



東日本大震災(H23.3) 可搬型の衛星通信装置です。カメラで撮影したりリアルタイムの動画の送信や受信ができます。

災害対応事例

東日本大震災や集中豪雨、台風などによる洪水被害が相次いで発生しました。防災センターは、これらの災害に対し、災害対策用機械の出動や資機材の供給を実施し迅速な災害復旧の中心的役割を果たしました。

東日本大震災の活動状況

応急組立橋による支援

国道45号川原川橋（陸前高田市）が津波被害によって通行不能となりました。

東北地方整備局と連携し、新潟防災センターから応急組立橋を運搬して、わずか6日で交通を確保しました。



【共用までの工程】

		3月						
		19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日
運搬								
架設								
撤付								
供用								



排水ポンプ車による支援



定川（東松島市）

不明者の捜索を行う自衛隊員との調整を行いながら排水作業を行いました。



被災自治体に常駐し、情報収集、提供などの支援を行いました。



名取川（仙台市）

津波により発生した住宅地などの湛水の排水作業を実施しました。

その他の主な支援

電話などの通信が困難を極めた被災自治体と県庁、国土交通省との通信を確保しました。

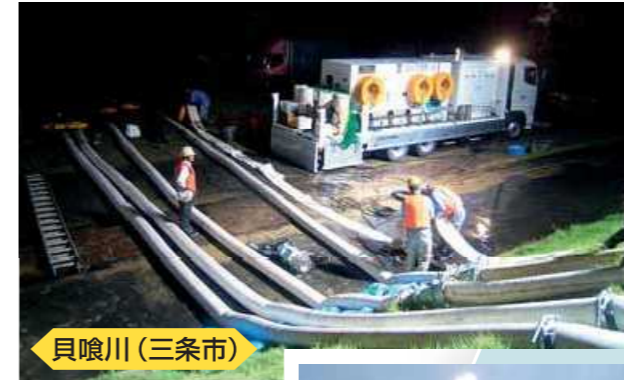
衛星通信車（石巻市）



被災した河川堤防や道路の現況調査

平成23年 新潟・福島豪雨災害の活動状況

排水ポンプ車による支援



貝喰川（三条市）

内水による住宅地の浸水を防ぐため、排水ポンプ車による排水作業を実施しました。



信濃川（加茂市）

応急組立橋による支援

橋が河川の氾濫によって流出し通行不能となった県道を復旧する仮橋として、新潟県へ応急組立橋を貸し出しました。



被災後の六箇橋



応急組立橋（十日町市）

河道閉塞（天然ダム）対策支援

土砂の崩落によりできた土砂ダムの対策を行うため、排水ポンプ車、照明車、遠隔操縦ショベルを貸し出しました。貸し出しにあたっては、操作方法などの技術支援を行っています。



羽根川（十日町市）の天然ダム



平成23年 台風12号災害の活動状況

河道閉塞（天然ダム）対策支援



Ku-satと衛星通信車

台風12号による災害の応急復旧を支援するため、排水ポンプ車、照明車、衛星通信車、投下型水位計等を派遣しました。また、中越地震（H16）等での河道閉塞への対応の経験、知識を基に技術的な支援を行いました。



投下型水位計

ヘリコプターを用いて水位計を天然ダム湖に投入し、衛星回線を使用して水位データの収集、分析を行いました。



■災害情報の収集

適切な災害対応を行うには正確な情報収集が必要不可欠です。北陸地方整備局では、関係者が災害情報を共有できるシステムを運用しています。

●防災情報共有化システム

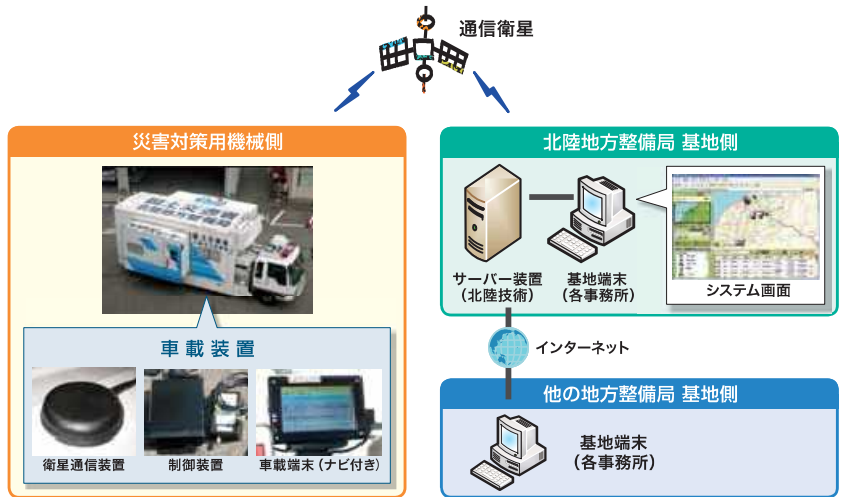
携帯電話で撮影した被災状況写真を、位置情報(GPSで取得)と合わせてメールでサーバーに送ることにより、パソコン上で写真とその位置を確認できるシステムです。被災した場所と状況が正確に分かり、迅速で適切な災害対応が可能になります。また、情報を有効に活用するため、新潟県との情報連携を行っています。

●車両位置情報共有化システム

大規模災害が発生すると、北陸地方整備局の所有する災害対策用機械だけでなく、他の整備局からも災害対策用機械が派遣されます。このシステムは、衛星通信とGPSを利用し、災害対策用機械の位置と稼働状況をパソコン上で確認することにより、多数の機械を適切かつ効率的に運用するものです。また、災害対策用機械に装備したナビゲーションシステムに、基地から目的地のデータを衛星通信で送ることにより、携帯電話が使用できない時でも正確に機械を誘導できます。



【防災情報共有化システム 概念図】



【車両位置情報共有化システム 概念図】



富山防災センター

(北陸技術事務所 富山出張所)

〒939-3544 富山市水橋入江334番地4
TEL (076) 478-5511
FAX (076) 478-5517



上越防災支援センター

(高田河川国道事務所 直江津国道維持出張所)

〒943-0166 上越市大字寺前新田615番1号
TEL (025) 525-7724
FAX (025) 524-9083



新潟防災センター

(北陸技術事務所)

〒950-1101 新潟市西区山田2310番地5
TEL (025) 231-1281
FAX (025) 231-1283



国土交通省 北陸地方整備局 北陸技術事務所
<http://www.hrr.mlit.go.jp/hokugi/>